

一貫教育校の広場

ニューヨーク学院
(高等部)

女子高等学校

志木高等学校

高等学校

湘南藤沢
中等部・高等部

中等部

普通部

横浜初等部

幼稚舎

修善寺幼稚舎疎開学園の碑

● 幼稚舎 舎長 武田敏伸
たけだとしのぶ

東京への空襲が激しくなった戦時下の幼稚舎は疎開を決め、1944年8月25日から翌45年6月30日まで伊豆・修善寺^{※1}で、その後列車での移動を経て7月2日から10月18日まで青森県・木造^{※2}で過ごしました。

幼稚舎生が宿泊していた木造中学校跡地にある銀杏ヶ丘公園には、2009年に幼稚舎疎開学園の碑が建立されました。ただ、当時から「なぜ期間も長く、人数も多かった修善寺ではないのか」という声も上がっていました。確かにご指摘の通りなのですが、修善寺では個人経営の宿に宿していて、碑を建てることは困難でありました。また朝礼の場所に使用していた修善寺境内^{※2}にも、特定の学校の碑を建てることは難しいと感じていました。

ところが『慶應義塾幼稚舎―疎開学園の記録 上』を読まれた「あさば旅館」(当時は涵翠園^{かんすいゑん})のご主人・浅羽一秀氏が、修善寺の吉野真常住^{しんじょうちゆう}に修善寺にも疎開学園の碑を建立したいという声があると伝えたところ、吉野住職から修善寺の境内に建ててもいいという許可を頂くことができ、幼稚舎に連絡してくださいだったので。これで修善寺に疎開学園の碑を建立する話は一気に具体化していきました。

碑のデザイン・設計は造形科の日向野豊^{ひなたのゆたか}教諭に依頼し、約1年1カ月の期間を費やし完成しました。そして2017年9月7日に修善寺境内にて、長谷山塾長、清家前塾長



をはじめとして、総勢80名が参列して除幕式を行いました。疎開学園の碑はデザインを重視したばかりではありません。碑の高さは130センチで、幼稚舎3〜4年生の身長をイメージしています。碑の前を横切る白い砂利は、修善寺の前を流れる桂川を意味し、その流れに置かれた平たい石は修善寺の前に架けられている虎溪橋を、白い砂利の左側にある大きな石は、宿泊していた涵翠園から見え、修善寺の温泉の発祥と言われる独鈷^{どくそ}の湯を、後ろの石は伊豆の山々を表しています。当時、幼稚舎生は3つの旅館に分宿

し、朝礼のために修善寺に集まっていた。3つの旅館から、独鈷の湯を見ながら虎溪橋を歩いて桂川を渡り、目の前にある修善寺に入って行く。そして碑は修善寺を表し、また幼稚舎生自身を表現しています。今回の疎開学園の碑とその周辺は、このようにストーリー性のあるものなのです。

幼稚舎144年の歴史の中でほぼ中間である70年目に、幼稚舎疎開学園が開かれました。幼稚舎にとって歴史上、一番辛かった時期と言えるでしょう。今後このようなことが二度と起きないように、私たちが後世の幼稚舎関係者に伝える意味でも、修善寺における「幼稚舎疎開学園の碑」は意味があることと思います。修善寺境内には誰でも入れますので、お近くにお越しの際は、ぜひご覧ください。

※1 伊豆の修善寺地方

※2 修善寺にある寺の名称